



GIGAスクールサポーター質問会

令和3年2月5日

文部科学省 初等中等教育局 情報教育・外国語教育課

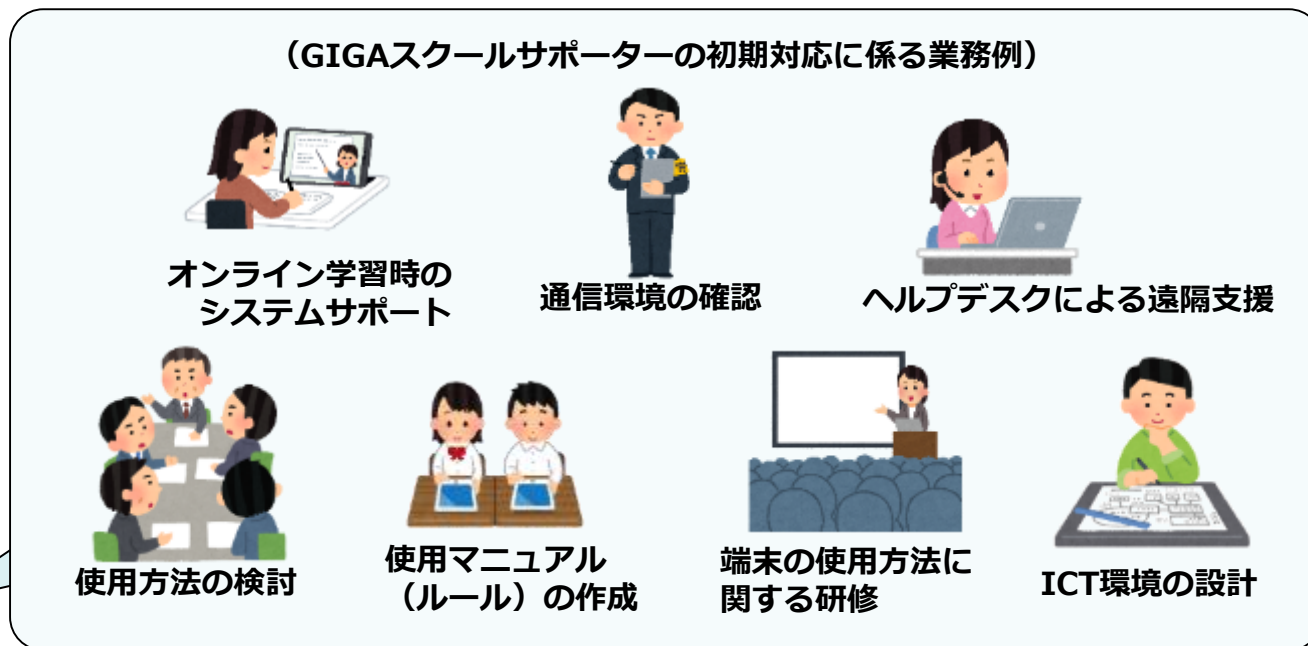
GIGAスクールサポーター配置促進事業

令和3年度予算額(案) 10億円
(令和2年度第1次補正予算額 105億円)



災害や感染症の発生等による学校の臨時休業等の緊急時においても、ICTの活用により全ての子供たちの学びを保障できる環境を早急に実現するため、「1人1台端末」の早期実現や家庭でも繋がる通信環境の整備など、「GIGAスクール構想」を加速することが必要であるが、学校の人的体制は不十分である。

このため、急速な学校ICT化を進める自治体等を支援するため、学校における **ICT環境の設計**や**使用マニュアル(ルール)の作成**のほか、新型コロナウイルス感染症による臨時休業期間における、オンラインによる家庭学習の実施に関する支援等を行う **ICT環境整備等の知見を有する者の学校への配置経費を支援**する。



対象校種 国・公・私立の小・中・高校・特支等

実施主体 国立：国立大学法人
公立、私立：都道府県、政令市、その他市区町村等、学校法人

想定人材 ICT関係企業OBなどICT環境整備等の知見を有する者

補助割合 国立：定額 公立、私立：1/2

補助対象経費 人件費、旅費、消耗品費、雑役務費(委託事業費)等

業務例①：通信環境の確認



こんなことで悩んでいませんか。

- ・以前よりインターネットにつながりづらい。
- ・学級で一斉にコンピュータを接続すると、時間がかかる。

業務例⑤：使用方法の検討



こんなことで悩んでいませんか。

- ・家庭で使用する時のルールや学校内で使用する時のルールを決めるのに助言が欲しい。
- ・子供たちの実態に合わせたルールを作成したい。

業務例②：使用マニュアルの作成



こんなことで悩んでいませんか。

- ・学校で使用する時のルールを作りたい。
- ・家庭に持ち帰ったときのガイドライン等を作ったけど専門的な人に確かめて欲しい。

業務例⑥：授業時の端末操作やトラブル対応



こんなことで悩んでいませんか。

- ・当面の間、通信障害等の急なトラブル時に対応できるようにGIGAスクールサポーターを授業支援という形で配置したい。

業務例③：ヘルプデスクによる支援



こんなことで悩んでいませんか。

- ・教育委員会担当者が一人しかいないため、トラブルがあったときにすぐに対応してもらえない。
- ・保護者から「端末がうまくつながらない」との連絡があり、対応に困っている。

業務例⑦：研修会の実施



こんなことで悩んでいませんか。

- ・端末の使用方法や授業時における活用方法について、校内研修や情報担当教員向け研修会を実施したいが、誰に頼めばいいのかわからない。
- ・教員のICT活用指導力をこれまで以上に高めたい。

業務例④：オンライン学習時のシステムサポート



こんなことで悩んでいませんか。

- ・オンライン学習中においても、教員には指導に専念してもらい、通信やハード面のトラブルに対する支援は他の者に任せたい。
- ・情報担当教員だけでは対応できないため、サポートスタッフに委ねたい。

次ページ以降に、令和2年度に

GIGAスクールサポーターを配置した自治体の取組を掲載。

令和3年度GIGAスクールサポーター配分方針（案）

1. 方針

◆ 標準補助額の算定について

▶ 標準補助額の考え（令和2年度）

$$\text{補助事業者における対象学校数} \div \begin{matrix} \text{(4校に2人)} \\ 4 \end{matrix} \times \begin{matrix} \text{(雇用単価/年)} \\ 2 \end{matrix} \times \begin{matrix} \text{(6か月)} \\ 230 \text{万円} \end{matrix} \times \begin{matrix} \text{(補助率)} \\ 6 \text{か月} \end{matrix} \times \begin{matrix} \\ 1/2 \end{matrix}$$

※令和3年度は4校に1人で積算



- 標準補助額を超える部分については、**予算の範囲内で調整額により増額して算出**（当該学校設置者の事業費の1/2まで）。
- GIGAスクールサポーターとして活用する者の「**人数**」や「**単価**」、「**期間**」については「学校におけるICT環境整備の初期対応」という本事業の趣旨を踏まえつつ、**自治体において柔軟に定めることができる**。

2. 補助事業者における補助執行の考え方

- 事業の趣旨や国における補助金の配分方針を踏まえつつ、**補助金配分額の範囲内**であれば、地域や学校の実情に応じて効果的に環境の整備等を支援するという観点から、**補助事業者において弾力的な運用も可能**とする。

◀ 弾力的な運用の例 ▶

- 1人のGIGAスクールサポーターが担当する学校数を増やす代わりに、単価の高い優秀な人材を雇用
- 整備期間が長引くため、1人のGIGAスクールサポーターが担当する学校数を増やす代わりに配置期間を1年間に延長

事例① 水上村教育委員会（熊本県）

学校数：小学校2校 中学校1校

児童生徒数：177名

GIGAスクールサポーター配置人数 1名

業務内容

- ▶ タブレット操作マニュアルの作成
- ▶ オンライン学習の設定
- ▶ MetaMoJi Classroom導入についての助言
- ▶ 教育委員会・教員の相談業務（電話・メール）
- ▶ 学習用ソフト・アプリの検討
- ▶ 不具合が生じた際の導入業者への連絡

配置計画

● 9月

- ・議会への予算計上

● 10月

- ・契約締結
- ・Classroomの教員研修（使用方法等）

● 11～3月

- ・授業時での端末接続、及び端末操作サポート
- ・村内の校長及び情報担当者向けの研修会の実施
- ・各学校の校内研修会において使用方法を周知
- ・全3校の情報共有会議（事例の共有、接続状況の確認など）

1. 契約内容

- ・入札方法：随意契約
- ・勤務日等：週1～2日（1日1～2時間）
※契約期間全体で100時間
- ・配置期間：2020年10月1日～2021年3月31日
- ・雇用形態：業務委託

2. 導入に至った経緯

- ・タブレット端末導入にあたり、操作マニュアルの作成等、**教員にかなりの負担が予想**された。また、**教員が新たな業務を抱えることで授業に影響をおよぼすことを懸念したため**。
- ・オンライン家庭学習時の環境整備等を進めるための事業発足にあたり、専門知識を有するGIGAスクールサポーターの配置が必要と判断したため。

3. 業務の様子（オンライン接続、端末操作サポート）

- ・オンライン接続のためのClassroomの作成など、各端末をインターネット環境に接続するためのサポート業務を行う。
※1学級30名分のClassroomのURLの設定。

接続がうまくいかない場合などの急なトラブル時に備えて、授業に立ち合い、教員や子供たちのサポートを行う。



オンライン接続してフィリピン講師と会話する様子

4. 自治体担当者の声

- ◆ 1人1台端末の整備完了が夏季休業中に完了し、その後、端末導入時期における操作方法のサポート等を中心に、GIGAスクールサポーターが教員や子供たちのサポートを実施している。また新しい機能やクラウド活用について紹介する等、**教員が新しく導入した端末を授業の中で効果的に活用できるように研修を通して周知した**。
- ◆ 端末等の故障時に、導入業者への連絡を行ってもらうことで、**教員のみならず教育委員会担当者の負担も大幅に軽減された**。
- ◆ 教員から「**教員の負担の軽減につながり、指導に専念できる**」といったGIGAスクールサポーターへの感謝の声が聞かれた。

ポイント

事例② 江別市教育委員会（北海道）

学校数：小学校17校 中学校8校

児童生徒数：8,581名

GIGAスクールサポーター配置人数 5名

業務内容

- ▶ ICT機器の環境整備補助
- ▶ 利活用のための支援
- ▶ 教員向けの研修会の実施
- ▶ GIGAスクールサポーターの支援による効果測定

配置計画

- 9月
 - ・仕様書作成
- 10月
 - ・契約締結
- 11・12月
 - ・モデル校に1名のGIGAスクールサポーターを配置
 - ・モデル校の取組を各学校に周知
- 1月以降
 - ・5名のGIGAスクールサポーターを配置し、モデル校以外の学校のサポートや教員向け研修会の実施（予定）

1. 契約内容

- ・入札方法：随意契約（端末納入業者）
- ・勤務日等：週4日（1日あたり10：30～16：30まで勤務）
- ・配置人数：11～12月…1名
 - ※モデル校1校を指定し、GIGAスクールサポーターを配置1～3月…5名（4名増員）
 - ※5名の配置校を決定し、巡回させながら活用
- ・配置期間：2020年10月1日～2021年3月31日
- ・雇用形態：業務委託

2. 導入に至った経緯

- ・教育委員会だけでは、ICTに対する知見が十分でなく、端末導入業者に依頼することで、スピード感を持った対応が可能と判断した。
- ・学校のICT事情に詳しい端末導入業者に依頼したことにより、教育委員会や教員から問合せがしやすいというメリットもあると判断した。

3. GIGAスクールサポーターの活用方法

- ・これまでICT活用を進めてきたモデル校に、**先行的にGIGAスクールサポーターを配置**して得られたノウハウ・情報を、他のGIGAスクールサポーターと共有したことにより、その後の他校でのICT機器導入時における課題を最小限にした。
- ・また、教員から出た質問や機器のマニュアルなど得られた情報について、**モデル校に先行して配置した段階から、継続的に「サポーターだより」として各学校に周知**した。

ポイント



4. GIGAスクールサポーターによる効果

- ◆ モデル校でのGIGAスクールサポーターが学校現場で受けた質問を、業務報告の際に集約することで、教員が学校でどのような準備が必要かというイメージづくりができ、端末導入時の業務効率化につながった。
- ◆ 教育委員会や教員が、端末導入にあたり、慣れない業務への漠然とした不安を持っていたが、相談できる人がいるということで、不安の解消が図られ、安心感を与えた。

事例③ 新十津川町教育委員会（北海道）

学校数：小学校1校 中学校1校
児童生徒数：461名
GIGAスクールサポーター配置人数 1名

業務内容

- ▶ タブレット選定検討委員会への参加
- ・タブレット導入にあたっての提案・助言
- ・事前打ち合わせ同席
- ・選定される端末の情報収集

配置計画

- 5月
 - ・GIGAスクールサポーターの活用検討
 - ・人材募集
- 6月
 - ・人材決定
- 7月
 - ・タブレット選定検討委員会の開催
 - ・タブレット導入決定（業務終了）

1. 契約内容

- ・勤務日等：3日（計16.5時間）
※打合せ2日（10時間）、選定委員会1日（6.5時間）
- ・配置期間：2020年7月
- ・雇用形態：会計年度任用職員

2. 導入に至った経緯

- ・教育委員会の担当者も、**端末・OSに関する知識が乏しく、詳細にわたりアドバイスが必要**と考えた。
- ・当初、IT機器扱う地元業者を検討していたが、機器やネットワーク全てに精通している人材が見つからず、費用もかかることから、業者が端末の選定に影響することを懸念し、業者からGIGAスクールサポーターを選任することは断念。
- ・新十津川町内在住である程度の知識のある人材を探していたところ、**元地域おこし協力隊で地元で中古PC販売をしていた方を採用**。

ポイント

3. 選定委員会でのGIGAスクールサポーターの役割

OS選定にあたり、タブレット選定委員会への参加を通じて、各OSの特長・メリットなどを資料を基に説明。

【参考】選定委員

小・中学校情報担当教員各名・教育委員会担当者3名・町長部局情報担当1名



4. 自治体担当者の声

- ◆ 教育委員会にICT部署がなかったため、サポートをしてもらいたく、GIGAスクールサポーターを活用した。
- ◆ 教育委員会の職員では、Windows以外の端末についての知識が乏しく、**各OSのプレゼンを聞いても、どれも良く見えて困っていたところ、サポーターに、各OSの特長、メリットを説明**してもらい、操作性や管理のしやすさを考慮してOSを決めることができた。
- ◆ 短期間の活用で実際3回程度会議に参加してもらっただけではあるが、GIGAスクールサポーターの貢献度は大きい。

事例④ 明和町教育委員会（三重県）

学校数：小学校6校 中学校1校

児童生徒数：1,790名

GIGAスクールサポーター配置人数 7名

業務内容

- ▶ ネットワーク工事の管理
- ▶ MDM設定
- ▶ 教員研修
- ▶ 端末、キーボードなど周辺機器の納品物チェック、設定
- ▶ 端末使用に関するルール作成

配置計画

● 10月

- ・ 契約、配置準備
- ・ 端末納品時にサポーター配置

● 11～3月

- ・ 明和町GIGAスクール構想プロジェクト委員会への参画、ルール作成、機器設定

● 1月～

- ・ サポーターによる教員研修
- ・ 端末使用方法
- ・ GIGAスクール構想に関する理解
- ・ 有料ソフトの使い方等

1. 契約内容

- ・ 入札方法：指名競争入札（地元のICT関連業者）
- ・ 勤務日等：週2日、1日1校6時間（原則）
- ・ 配置人数：7人（各校1名）
- ・ 配置期間：2020年10月1日～2021年3月31日
- ・ 雇用形態：委託契約

2. 導入に至った経緯

- ・ 教育委員会が人員不足であること、ICT知識が不足していたことから、導入を検討。
- ・ **財政当局へは、支援員と役割が明確に異なること、一度に大量の端末が入るので運用を安定させるためにも必要であること**、かつ、国の補助金があることを説明し、理解を得る。
- ・ ICT支援員は6年前から配置しており、教員の授業のサポート業務にあたっている。**GIGAスクールサポーターは、基本的に授業には関わらず、端末、周辺機器の設定を行う。ICT支援員が授業のサポートに専念できるように、GIGAスクールサポーターを配置。**

ポイント

3. GIGAスクールサポーターをによる効果

アカウント登録やNWの接続設定への対応、端末使用におけるルール作成、アプリを実験的に試して評価するなど、本来、教育委員会が行う業務として考えていたが、GIGAスクールサポーターが担うことで、教育委員会の負担が大きく軽減されている。



4. 自治体担当者の声

- ◆ アカウント設定を自治体のセキュリティとの関係で取得するのに苦労したが、専門知識を持っているGIGAスクールサポーターに依頼してもらい、設定することができた。
- ◆ 年度末（2・3月）の教員が忙しい時期に、GIGAスクールサポーターが端末の設定、アプリのインストール等の業務を行うため、教員の負担軽減をより一層図ることができると考える。

事例⑤ 伊丹市教育委員会（兵庫県）

学校数：小学校17校 中学校8校 高校1校 特別支援学校1校
児童生徒数：16,329名
GIGAスクールサポーター登録人数 のべ32名
(直接雇用による人材16名・シルバー人材16名)

業務内容

- ▶ iPad初期設定業務（センターでの作業）
- ▶ MDM設定のフォロー（センター）
- ▶ 電源キャビネットへの端末設置（各学校での作業）
- ▶ 端末設定のフォロー（各学校）

配置計画

- 8月
 - ・ 契約締結
- 8～10月
 - ・ 端末整備
 - ※GIGAスクールサポーターによる支援
- 11～2月
 - ・ ネットワーク整備
- 1月～
 - ・ 各学校での端末設定サポート
 - ※GIGAスクールサポーターによる支援

1. 契約内容

伊丹市シルバー人材センター委託分

- ・ 入札方法：随意契約
- ・ 勤務日等：週2～3日
- ・ 配置人数：常時4～12名程度（全体で16名が就業）
- ・ 配置期間：2020年8月～2021年3月
- ・ 雇用形態：業務委託
- ・ 配置形態：総合教育センター及び学校での就業

直接雇用分

- ・ 募集方法：紹介や公募等で広く募集
- ・ 勤務日等：週1～5日（人によって異なる）
- ・ 配置人数：常時2～6名程度（全体で16名が登録）
- ・ 配置期間：2020年8月～2021年3月
- ・ 雇用形態：直接雇用
- ・ 配置形態：総合教育センターで勤務

2. 導入に至った経緯

- ・ 当初計画よりも端末導入時期が早まり、早急に端末導入の人手が必要となり、関係業者に依頼を検討するも人材確保が難しく時間がかかると判断。
- ・ 人員の確保を最優先に考え、**人員の供給源としてシルバー人材センターを活用**することを検討。
- ・ **ICTに関心のある人材を確保し、常時4～12名体制で支援**を行っている。

ポイント



3. GIGAスクールサポーターの役割

- ・ 授業のサポート、ヘルプデスクなどはICT支援員が担い、GIGAスクールサポーターは主に端末設定等を行い、それぞれの役割を明確に棲み分けながら実施している。
- ・ 日によって作業するサポーターが異なるため、GIGAスクールサポーターに作業内容を伝えるのに時間がかかるといったこともあるが、シルバー人材センターを含む多くの人材を確保したことで今年度調達予定の約15,000台の端末設定が滞りなく進めることができている。

4. 自治体担当者の声

- ◆ GIGAスクールサポーターの年齢層は、主に60～70代のシルバー人材センター会員であるため、**端末の初期設定などの作業を単純化するよう、設定マニュアル、工程手順等を作成するなど教育センター側で工夫**した。決まった人が決まった時間に作業してもらうことで、作業内容を理解し、慣れることで、作業進捗が大幅に改善した。
- ◆ 端末設定で不具合が生じた際、状況によって対処方法が異なるため、**不具合の内容をGIGAスクールサポーター間で情報共有**して、不具合が起こった際に対応している。

事例⑥ 大府市教育委員会（愛知県）

学校数：小学校9校 中学校4校
児童生徒数：8,363名
GIGAスクールサポーター配置人数 6名

業務内容

- ▶ 端末の検品・確認
- ▶ 端末の初期設定
- ▶ 端末リース返却対応（端末更新に伴い、リース返却作業を業者と行う）

配置計画

- 8月
 - ・小学校第6学年、中学校第3学年を対象に端末導入
 - ※授業で活用できる状態
- ～12月
 - ・全児童生徒の端末導入
 - ※家庭への持ち帰りも可能な状態
- 1月～
 - ・クラウド設定対応
 - ・アカウント取得作業
 - ・年度末に向けたアカウント切り替え作業
 - ※卒業学年が使用した端末の切り替え

1. 契約内容

- ・ 入札方法：随意契約（ICT支援員派遣業者）
- ・ 勤務日等：週2～3日（1か月80時間程度）
- ・ 配置人数：6名
- ・ 配置期間：2020年8月～2021年3月
- ・ 雇用形態：派遣契約
- ・ 配置形態：1人当たり2～3校を担当



ポイント

2. 導入に至った経緯

- ・ 教員の負担軽減。5年前から段階的に端末を導入した際には、全児童生徒の3分の1の端末台数だったが、今回は1人1台の端末を短期間で導入するため、さらに人員が必要と判断。
- ・ GIGAスクールサポーターの導入にあたって、文部科学省資料に企業人材の活用とあり、市と地域のつながりから、**自動車製造会社系列のシステム開発を担当していた人材を確保。**
- ・ **市長は、コロナ対策を重要視するとともに、ICT教育にも関心が高く、教員の多忙化を危惧していたことから、重点事業として円滑に事業を開始することができた。**

3. GIGAスクールサポーターの役割

- ・ 端末設定台数がかなり多い（新規調達台数5,575台）ため、学校及び教育委員会だけで対応することは難しいと思ったが、GIGAスクールサポーターの配置により作業量が大幅に軽減された。
- ・ ICT支援員とGIGAスクールサポーターの役割を分担し、ICT支援員に求められる本来の役割である授業支援に専念できるようにした。

4. 自治体担当者の声

- ◆ GIGAスクールサポーターを派遣契約にすることで、業務委託に必要な中間経費が削減できた。派遣契約の性質上、教育委員会や学校からの指示に従ってGIGAスクールサポーターは業務を行うため、GIGAスクールサポーター任せにならず、業務を把握しながら活用することができる。
- ◆ GIGAスクールサポーター、端末保守業者、ICT支援員との導入に係る情報共有を密に行い、ICT環境整備を速やかに進めることができています。

Q 1

ヘルプデスク業務は、補助対象として認められますか。

A 1

認められます。ヘルプデスクをチャットボットにより対応をされていた自治体もあります。

Q 2

既存の端末（児童生徒用・教師用）を新しいネットワークに接続するために、設定変更業務をGIGAスクールサポーターに依頼したいのですが。

A 2

GIGAスクール構想による端末の入れ替えに係る移設費ということであれば問題ありません。ただし、**GIGAスクール構想は子供たちの端末の整備が主であり、先生方の端末整備が主とならないよう**をお願いします。また教員の私物端末を設定することがないようにお願いします。

Q 3

GIGAスクールサポーターが業務に当たって使用する端末も補助対象経費として認められますか。

A 3

学校のICT環境整備の初期対応という性格を踏まえ、**備品としての購入は想定していません**。レンタル経費については認められます。

Q 4

ネットワークの保守・管理業務をGIGAスクールサポーターの業務としてもよろしいですか。

A 4

一人一台端末の環境下においても安定したネットワーク環境の中で端末を活用するためにも、**ネットワークの保守や管理、調査などGIGAスクールサポーターを積極的に活用**願います。

Q 5

GIGAスクールサポーターを教育委員会に配置し、ヘルプデスクや、巡回支援員という形で配置したいのですがよろしいですか。

A 5

「学校におけるICT環境整備の初期対応」という本事業の趣旨を踏まえたものであれば、**配置場所について特段指定はありません**。

Q 6

希望調査の段階では直接雇用を想定していましたが、委託契約への変更の可能性があります。交付申請書類の費目の金額が変わってしまうことが考えられるが、問題はないでしょうか。

A 6

交付決定額内であれば、費目の内訳金額が変わっても差し支えありません。

◆ 上記以外のFAQにつきましては「GIGAスクールサポーター配置事業FAQ（令和3年2月4日付）」に記載してありますので活用ください。